

はいえん 肺炎



肺炎とは、肺に炎症を起こす病気のことを指します。この炎症は、細菌やウイルスなどによって起こります。細菌やウイルスは、鼻や口から侵入し、のどを経由して肺の中に入り込みます。健康な人は、この細菌やウイルスをのどでブロックできますが、風邪をひいたり免疫力が落ちている時は、細菌やウイルスがのどや気管を通りぬけて肺まで侵入し、炎症を起こします。この状態を肺炎といいます。

高齢者に肺炎による死亡が多いのはなぜか

高齢者が肺炎にかかると重症化しやすい理由は、もともと持っている慢性疾患が原因であると考えられます。たとえば、慢性気管支炎、気管支ぜんそく、肺気腫、肺線維症など、呼吸器の疾患がある人は、通常でも気道や肺が炎症を起こしている状態のため、肺炎のウイルスが侵入すると感染しやすい状態にあります。

また、肺炎になると慢性疾患も悪化し、呼吸困難に陥りやすくなります。さらに、全身疾患である腎不全や肝硬変、糖尿病など、内臓の慢性疾患を持っている場合も、免疫力が弱くなっている場合があり、細菌やウイルスに感染しやすくなっているため、肺炎にかかりやすいというリスクを持っています。

肺炎の分類

一言で肺炎といっても、原因となる病原微生物が違っていれば、治療法が異なります。またどこで、どのような原因で肺炎に感染・発症したのかという、発症の仕組みによっては、予後が大きく変わることがあります。

肺炎の原因となる病原微生物には、細菌（細菌性肺炎）、ウイルス（ウイルス性肺炎）、その2つの中間的な性質をもつ微生物（非定型肺炎）の3つが考えられます。

	原因	特徴
細菌性肺炎	肺炎球菌、インフルエンザ菌、黄色ブドウ球菌などの細菌が原因で起こる。	湿った咳と共に、黄色や緑色を帯びた痰が出る。
ウイルス性肺炎	インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、水痘ウイルスなど、さまざまなウイルスが原因で起こる。	一般的なかぜ症状に続き、激しい咳、高熱、倦怠感などの症状が出てくる。
非定型肺炎	マイコプラズマ、クラミジアなど、細菌とウイルスの中間的な性質を持つ微生物が原因で起こる。	乾いた咳が長く続くことが多い。（痰は少なめ）

初期の症状は、咳、痰、発熱など、似ているところも多いのですが、細菌性肺炎と非定型肺炎では、咳の状態に違いがあります。また、ウイルス性肺炎の場合は、急に39度以上の発熱があることが多いため、そういった症状のわずかな違いからでも、病原微生物を推測することができます。医療機関を受診した時は、自分の症状を細かく説明し、熱の出方（朝方に高熱になり日中は下がるなど）の特徴なども、分かる範囲で伝えるようにしましょう。



お元氣ですか？

3月



坂出市
愛育会